

1 学校として目指す授業

「学ぶ楽しさ、分かった・できた喜び」を感じられる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、「書くこと」の平均正答率が、全国よりも3.4%下回っていた。また、無回答が14.4%で全国と比べると約2倍の数値となっていた。図表やグラフを用いて、自分の考えを伝える力に問題がある。「思考・判断・表現」を高める指導を継続的に行うことが課題である。 ・算数では、平均正答率(全体)は62.5%であり、全国と比較すると2.5%下回っていた。また、「知識・技能」は1.3%下回っており、「思考・判断・表現」は4.6%下回っていた。中でも、「思考・判断・表現」については、「比例」「図形の面積」「データの活用」の3点が平均を下回っている。3点とも記述問題のため、式や言葉を用いて説明する力に問題がある。「思考・判断・表現」を高める指導を継続的に行うことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「算数の授業は好きですか」という質問に対して「そう思う」と回答した児童が全国平均より8.8%下回っていた。児童の学習意欲に問題がある。「主体的に学習に取り組む態度」を高める指導を継続的に行うことが課題である。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

- ・国語では、「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」と答えた児童は、60%であった。また、「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している」と答えた児童も65%であった。自分の考えを伝える力に問題がある。「思考力・判断力・表現力」を高める指導を継続的に行うことが課題である。
- ・算数では、「問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている」と答えた児童が65%であった。式や図表、言葉を用いて説明する力に問題がある。「思考力・判断力・表現力」を高める指導を継続的に行うことが課題である。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

- ・国語では、「文章を書く」について、平均正答率が50%以下であった。指定された長さで文章を書いたり、2段落構成で文章を書いたりする力に問題がある。また、内容の中心を明確にし、自分の考えの理由や具体的な事例を書く力にも問題がある。「思考力・判断力・表現力」を高める指導を継続的に行うことが課題である。
- ・算数では、全国の平均と比べ、「主体的に学習に取り組む態度」が7.6%下回っていた。児童の学習意欲に問題がある。「主体的に学習に取り組む態度」を高める指導を継続的に行うことが課題である。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルでは、平均正答率が60%より下回る学年が3学年あった。 ・問題の中でも、文章問題やグラフ、表を読み取る力に問題がある。 ・「思考力・判断力・表現力」を高める指導を継続的に行うことが課題である。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・国語と算数の主体的に学習に取り組む態度を高める指導を継続的に行うことが課題である。
- ・国語の思考力・判断力・表現力を高める指導を継続的に行うことが課題である。
- ・国語の思考力・判断力・表現力の中でも、自分の考えを文章で書いたり、伝えたりする力の指導を継続的に行うことが課題である。
- ・算数の思考力・判断力・表現力を高める指導を継続的に行うことが課題である。
- ・算数の思考力・判断力・表現力の中でも、式や言葉、図表を用いて説明する力の指導を継続的に行うことが課題である。

【授業改善推進プランの活用法】

- ・学校経営方針や児童の実態を基に授業改善推進プランを作成し、学校全体の授業改善の視点を設定する。
- ・学校全体の授業改善の視点を基に、各教科における授業改善を行う。
- ・毎月実施状況を評価し、指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ◯...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- ・問題解決的な学習の展開
- ・協働問題解決学習のための学習形態の工夫

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語、順序を意識させ、書いた後に読み直しの時間を設定する。 ・日記を書く活動を定期的に取り入れる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に合わせて、具体物や半具体物を操作したり、図や言葉を用いたりする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことをペアやグループの中で表現させ、知識を深めたり、遊びの工夫につなげたりする機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをペアやグループで伝え合い、曲想を感じる機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の実態に興味関心をもち、ペアや小グループで感想を伝え合う機会を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・友達と簡単なルールや作戦を工夫し、協力しながらゲームをする機会を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方をペアや小グループで表現し、考えを伝え合う楽しさを感じる機会を設定する。 		
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「初め、中、終わり」で段落に分け、話の中心や考えとその理由の関係をはっきりできるような指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時に関連するグラフや表を取り上げ、その表から特色や変化などを読み取る時間を十分に確保する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉や式、絵や図などを用いて表す指導を重視し、説明する学習活動を取り入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで協議して問題や仮説を設定し、問題解決を主体的に行う機会を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをペアやグループで伝え合い、曲の特徴を捉えた表現の工夫や鑑賞をする機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動やICT機器を活用して作品の相互鑑賞を行い、感想を伝え合う機会を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末での動画の共有や技能の高い児童を見ることで、技能のポイントを視覚的に捉える時間を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方をペアや小グループで表現し、自分の考えを深めたり、新しい視点をもつ機会を設定する。 		
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてるように、自己の主張とその理由が示された話型を示したり、友達との交流活動を増やしたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表を読み取るポイントを伝え、読み取ったことをグループで話す機会を設定する。 ・図や表などを用いて自分の考えをまとめる方法を伝え、自分の言葉でまとめる機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や式、図などを用いて自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする活動を多く設定し、考えを深めたり広げたりできるようにする。ICTも活用して思考を共有する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで協議して、実験方法を考えたり、考えをまとめる機会を設定する。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをペアやグループで共有し、曲にふさわしい表現の工夫や曲の良さを鑑賞する機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動やICT機器の活用を通して発想を共有し、意見交換を行う機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、考えや活動内容を共有し、意見を交換できるようにする。実技内容を動画で示し、児童が活動の見直しをよりもてるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員のアドバイスや賞賛などの言葉掛けを積極的に行う。また、単元の導入時以外は、子供たち同士の教え合いの時間を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一時間に一度は対話の機会を設定し、児童が英語を使って自分の考えや気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする機会を増やす。 ・外国の文化を理解しやすいように、写真資料や動画資料を使用する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動やICT機器の活用を通して自分の考え方を伝え合う中で、自分の考えを深め、他者の考えの良さに気付いて尊重できる態度を養う機会を設定する。 	